RYLAにおける中核的価値観とリ－ダ－シップ

元RI理事　　南園　義一

緒言

　RYLA　について！

　 中核的価値観とリ－ダ－シップ

 P.F. ドラッカ－の「リ－ダ－シップ」論

結語

＜緒言＞（スライド１）

RYLA全国研究会も今年で8回目を数えます。創始以来、故今井鎮雄委員長そして海沼美智子さん、現在、お世話願っている御手洗美智子さんはじめ皆さんの努力によって、次第にこのRYLA研究会の内容が充実し発展して来ています。現在まで尽力された方々、そして御参加の皆様に厚く感謝申し上げます。

本日の特別講演の題目は「RYLAにおける中核的価値観とリ－ダ－シップ」と致しました。はじめに「RYLAの歴史と理念について」、その概念と特徴だけを話させて頂きます。次に「中核的価値観とリ－ダ－シップ」が本題でございます。最後に「P.F.ドラッガ－のリ－ダ－シップ論」を話して締めくくる予定です。

（スライド２）

＜ロ－タリ－110年の歴史＞

最初に、ロ－タリ－の歴史の概略を見ることから始めたいと思います。ロ－タリ－は1905年に始まり、2005年にはロ－タリ－創始100年を祝いました。そして今年で110年を超えました。その間、卓越した理念と素晴らしい価値観を基（もと）に、私たちは地域社会や国際社会で各種の奉仕活動を積み重ねて参りました。しかし、激動する世界社会の中にあって、これから将来へのロ－タリ－の活動は可なり難しい舵取りが必要になってくると思われます。

まず、ロ－タリ－の時代的変遷をみますと、ロ－タリ－の歴史を25年毎に区切る事が出来ると思います。1905年からの約25年間の「創始期」に始まって、「受難期」、「拡大期」、「発展期」と25年毎に区切られます。現在ではロ－タリ－活動は質的にも量的にも拡大し、今や地域社会だけでなく、全世界的にロ－タリ－活動が進展しています。

（スライド3）

＜青少年活動の開始＞

これを青少年奉仕活動に限って見てみますと、丁度、ロ－タリ－が始まって50年を過ぎた頃、1970年代に青少年奉仕活動は始まりました。この頃、組織が確立し、本格的に活動の本質を転換し、財団活動も活発になり、活動の視野を内外に向け始めた時代です。

実質的には、青少年奉仕活動（障害児への奉仕活動等）は1920年代から行われていますが、インタ－アクト、ロ－タ－アクト、GSE活動等の開始は1970年代から始まっています。1962－63年度にインタ－アクト、1967－68年度にロ－タアクトが始まり、RYLAの公式開始は1970－71年度です。

＜RYLAについて＞

私は1978年5月にロ－タリ－に入会させてもらいましたが、当時の記録を探すために「ロ－タリの友」を読んでいましたら、1978年の「ロ－タリ－の友」「10月号」に「RYLAについて」という記事が掲載されているのを見つけました。

その頃、オ－ストラリアの地域ロ－タリ－雑誌の編集長であったポ－ル・へニンガム氏が書かれたもので、「The Rotarian」に掲載されものを転載したもののようです。これを読みますと、RYLA発祥当時の考え方や様子がよく書かれています。

（スライド4）

＜RYLAの始まり＞

それによりますと、RYLAの始まりは、公式には、1971年から始まっていますが、実際には1959年、オ－ストラリアのクイ－ンズランド州が自治権獲得100周年の記念式典を開催した時、エリザベス女王の名代としてアレクサンドラ王女が派遣されました。

これを機会に、アレクサンドラ王女に会わせるために、開催地、ブリスベンのロ－タリ－クラブが主催して、アレクサンドラ王女と同年代の青年たちを集めてセミナ－に参加を勧めました。これがとても評判がよくて、ブリスベンのロ－タリアン達はこの催しを毎年行うことにしました。これがRYLAのはじまりです。

（スライド５）

＜RYLAの特色＞

具体的には、オ－ストラリア内で各クラブ2名宛の青年を選んでブリスベンに招待し、文化、社会、教育の各セッションのセミナ－に出席させたのです。

その時の青少年達は、奉仕に大変関心があり、又、自ら考え、行動する積極的な自主性の持ち主たちで、与えられた課題にとても熱心に取り組み、話しあったそうです。

こうしてRYLAは生まれました。最初の頃はロ－タリアンの自宅に分宿して１週間程度のプログラムに参加するものでありましたが、やがてキャンプ生活をするようになりました。ポ－ル・へニングガム氏の論旨の目的は、RYLAの特徴を述べ、他の青少年団体と如何違うのかを強調することでした。

ポ－ル・へニンガム氏は最初に指摘していますが、各種の青少年団体から参加した青少年たちは、ロ－タリ－の理念と同様に、人に関心を持ち、相手の身になって考え、人の幸せを願う奉仕の精神に関心を持っている青少年達であったという特徴がありました。

そして、自分たちが住んでいる地域社会の課題や将来への発展を考えている青少年達でした。従って、後年、このセミナ－は「人間的なリ－ダ－シップの育成」と自分たちの「地域社会の発展」とに重点が置かれるようになりました。

つまり、初期のRYLAに参加した青少年たちは、オ－ストラリアの各団体の青少年達のグル―プ代表でしたが、皆、「人のために尽くしたいという奉仕の考え」を抱いている青少年たちでした。また、与えられた事に義務として従事するのではなく「自ら積極的に行動するという自主性」を備えていました。

（スライド６）

＜発足当時のテ－マ＞

ポ－ル・へニンガム氏によれば、当時のRYLAの主要テ－マは、「人間関係、人間心理、集団力学、行動様式の理解、話術や討論の進め方、地域社会の資源や問題点、個人の道徳的あり方、社会問題、青少年会議の運営、プログラムの進め方、応急手当の方法等々で、実に多種多様な課題に亘っていますが、いずれも人に興味を持ち、人間に関わる問題と地域社会の問題に目標を絞っていたことが分かります。現在でも本質的には変わらない重要なテ－マが当初からあったのです。

＜ブリスベンの街＞

この様にRYLAが始まったブリスベンという街は環境的にも素晴らしいオ－ストラリア東岸の街です。私の地区ガバナ－時代、1997－98年のRI会長はブリスベン出身のグレン・キンロス会長で、また2003年のビチャイ・ラタクルRI会長の国際大会もこのブリスベンで開催されました。その時、私たちもブリスベンを訪れましたが、ブリスベンは落ち着いた雰囲気の良い街で、郊外には広いコアラ専用の動物園もあり、RYLA発祥の地として非常に印象に残っています。

＜RYLAの発展＞

こうしてRYLAの活動ははじまりましたが、最初の頃、RYLAの進展は遅々たるものでした。1962年に２番目の地区がRYLAを採用し、2年後の1064年に3番目の地区がRYLAを開催するとう状況でした。しかし、1971年にRIは公式にRILAの発足を認めてから、RYLAの活動は忽ちオ－ストラリア国内の地区に広がり、アメリカ大陸に渡りました。

現在では、主にアメリカ、カナダ、フランス、インド、フィリッピン、韓国、スイス、アルゼンチンそして日本等でRYLA活動が盛んに行われており、世界中の殆どの地区が年1回乃至2回RYLA開催している現状となりました。日本では1976年に大阪で開催されたのが始まりと言われています。

（スライド７）

現在、RYLA開始から約50年近い歳月が流れまたが、多くの若い人たちがRYLAに参加することによって、様々な問題を検討し、また変革され、そして「夢と感動」を持って自分たちの地域社会に帰って行きました。日本のロ－タリ－は、昨年の統計によれば全地区の80%がRYLAを開催し、今日も日本のロ－タリ－3ゾ－ンから、RYLAの体験談を話して頂きますが、RYLAの根底に流れる「人にたいする尊敬と向上心」、と「地域を愛し、発展を祈る精神」は変わることなく滔々と流れていると思われます。

この様に、ロ－タリ－における青少年奉仕は年々盛んになって行きます。特に「自主性」と「リ－ダ－シップ」を柱として「国際社会と地域社会の充実と発展」を願う活動はインタ－アクトでもロ－タアクト、青少年交換でも同じです。

(スライド8)

＜RYLAの基本方針＞

ここで、RYLAの基本方針を纏めてみますと、RYLA活動にはリ－ダ－シップと言う言葉が盛んに出てきます。まず、主体として「リ－ダ－シップの理解と実践」が強調されています。

そして、ロ－タリ－におけるRYLAの活動は、青少年奉仕活動の中でも人間性を尊重し、深く探求することを目的とし、問題解決や伝達重要性を強調しています。自信と自孫真を培い、地域社会での良き市民であり、世界市民として育つことを基本方針としています。

勿論「ロ－タリ－とは何か」が、最大の基本として理解されていなければないことは重要なことです。RYLAはロ－タリ－青少年活動の中心的役割を担っています。ロ－タリ－の基本的活動として発展するためにも、ロ－タリ－活動の理念的基盤である、中核的価値観の徹底した理解を進めることが最重要の課題と思われます。

（スライド９）

＜ロ－タリ－とは＞

RYLAはロ－タリ－青少年奉仕活動の中でも最も本質的な活動であると私は受け止めていますが、最初にロ－タリ－活動の本質を理解することが基盤となります。「ロ－タリ－とは何か」簡単に要約出来な面もありますが是非理解しておくべきであると考えます。

私は国際ロ―タリ－の理事を終えて、戦略計画委員会の委員を6年間務めましたが、或る時、戦略計画委員会で「ロ－タリ－とは何か」を真剣に討論してみることになりました。その時、戦略計画委員会の委員のみならず、本部の主要なスタッフや世界の与論調査会社であるジ－ゲル・ゲ－ル社のロ－タリ－担当者も参加しました。

そして、数時間の話合いの末、出来あがったものがスライドの通り、簡素でロ－タリ－の要点をしっかり把握した文章に成りました。それによると、ロ－タリアンは、まず夫々の職業に基づいた活動を基本とし、人々の幸せを願って人道的奉仕活動をすることが求められています。

そして最終的に世界平和と親善の達成の3つの目標を達成することが、ロ－タリ－活動の理想です。RYLA活動にはロ－タリ－活動の目的をしっかりと理解した上で、RYLAの基本的活動を展開する必要があります。

また、ロ－タリ－活動はすべて「中核的価値観」が基本理念です。青少年奉活動も同様です。各ロ－タリンは中核的価値観を理解し、実践すること望まれています。そして青少年奉仕活動は青少年を指導することではなく、「同じ価値観を共有して、共に活動すること」が望まれています。

(スライド10)

＜ロ－タリ－の中核的価値観＞（RYLAと中核的価値観の関連）

皆様、お存知の様に、ロ－タリ－の中核的価値観は、「親睦」、「奉仕」、「多様性」、「高潔性」、そして「リ－ダ－シップ」の５項目です。これらの価値観は「ロ－タリ－戦略計画」の原点でもあり、組織活動の基本原則を表わすものであるとされています。

中核的価値観の公式な表現は、戦略計画委員会で練りに練って作ったもので、2010年頃、もっと簡素な文章に変えようと言う提案もありましたが、実効が挙がるまで現行のままにしようということになっています。5項目を検討して見ることにします。

＜親睦＞（スライド11）

「親睦」はロ－タリ－活動の基本であり、出発点です。このことについては皆様よくお存知ですので、詳しくは申しませんが、とくに、最近では人々のニ－ズに焦点を当てる個人的奉仕だけでなく、人類に奉仕する協同活動が重要であるとされています。ロ－タリ－は自分の人生を豊かにするだけでなく地域社会や世界社会での文化の理解を生みます。所謂、「連携とコミュニケ－ションの拡大」が強調されています。複雑な社会では、親睦の「ネットワ－ク」が益々必要になります。

＜奉仕＞（スライド12）

「ロ－タリ－の奉仕」は、言うまでもなく、ロ－タリ－活動の中で最も重要なものです。私たちはクラブの計画と実践活動によって組織全体に活力を与え、世界理解と平和をもたらすものと信じています。

奉仕活動の基盤は「超我の奉仕」であり、「ロ－タリ－の目的」にありますように、各々の奉仕は断片的なものでなく、総合的なもので、機能的に考える必要があります。このことは、ロ－タリ－の「超我の奉仕」を基盤として「親睦と奉仕のネットワ－ク」が強調され、力を合わせることにより、更なる活動をもたらし、人生を豊かにし、視野を広げ、広範囲に連携した活動が展開されるものと期待されているのです。

＜多様性＞（スライド13）

また、多様性の尊重も中核的価値観の重要項目です。人種、性別、年齢、言語、信条等の「多様性の理解と尊重」は言うまでもなく、それらを超越して寛容の精神で包むことは、ロ－タリ－の仲間を増やすことだけでなく、思考や信念における多様性を増し、各種の多彩な発展を齎し、全ての人々を世界的に結束させることが出来ると私たちは信じています。多様な考えを結集することで、ロ－タリ－は会員増強に限らず、他とは違う視点で世界を見ることが出来ます。

＜高潔性＞（スライド14）

中核的価値観のなかでも、高潔性はロ－タリ－の基本理念であり、誠実、真実、信頼、公平、好意、尊敬等々の「高潔性」は四つのテストに如実に表現されています。人間性と人格の向上を目指すこれら価値観は、私たちにとって基本となる最も重要なものです。

高潔性は、真実、信頼、公平等々と表現されていますが「四つのテスト」を提唱したハ－バ－ト・テ－ラ－は、著書「我が自叙伝」の中で「高潔性」と4つのテストの関連を強調し、「愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、忠実、柔和、自制」という言葉で「高潔性」を謳っています。高潔性の結晶である「四つのテスト」は、やがてロ－タリ－の「リ－ダ－シップ」と関連してすべてのロ－タリ－活動の基本となる大切な教訓となっています。

＜リ－ダ－シップ＞（スライド15）

さて、5番目の項目の「リ－ダ－シップ」は、最近非常に重要視され、将来へのロ－タリ－活動の発展に欠くべからざるものとされています。ロ－タリ－は職業上の様々な分野で指導力を発揮できる世界的なロ－タリアンの集まりです。これらが有効に関連して効果を発揮すれば素晴らしい成果が挙がる筈です。

これらの中核的価値観を日本語に翻訳する時、私は「リ－ダ－シップ」を日本語で「指導性」と翻訳した如何だと提案したら、RI本部のスタッフに猛烈に反対されました。「リ－ダ－シップ」という言葉はそのまま日本語に同化し、しかも世界的に広い意味での連携と機能化を表現する言葉になっており、リ－ダ－シップのままの方が効果的だと言う意見でした。

この様に、「ロ－タリ－の中核的価値観」は各項目とも独立したものでなく、相互に関連して力を発揮するものです。また、ロ－タリ－では職業を通じたリ－ダ－シップこそロ－タリの最大の特徴です。私たちロ－タリアンは各自の「優れたリ－ダ－シツプ」を発揮して、社会的責任をもって、もつと地域社会や国際社会で活発に活躍すべきです。（中核的価値観とリ－ダ－シップとの関連性）

（スライド16）

＜ロ－タリ－のリ－ダ－シップは、横のハ－モニ－である＞

ロ－タリ－のリ－ダ－シツプは、従来から毎年の国際協議会等では「縦のリ－ダ－シツプ」ではなく、「横のリ－ダ－シップ」であると言われています。

つまり、オ－ケストラのように異なった楽器が夫々の音色を合わせて、美しく調和された素晴らしい響きを示すように、素晴らしいリ－ダ－シップをもつロ－タリアンが夫々の力を発揮して、調和のある方向性を見出し、効果ある成果を作り上げることがロ－タリ－の活動であると言うことに成ります。

昨年、2015年11月15日,第2550地区の地区大会でビチャイラタクル元RI会長はロ－タリ－の本質に言及し、中核的価値観の重要性を強調されました。

また、例年の国際協議会でも「ロ－タリ－のリ－ダ－シップ」について言及がなされ、「ロ－タリ－のリ－ダ－はいつも隊列の先頭にたって指揮棒を振ることではなく、時には羊飼いの様に羊の群れの中に入り、１頭１頭の羊と接する事が大切である」と強調され」、全世界から参集したガバナ－エレクト達から大拍手が起きたと言われています。

(スライド17)

＜リ－ダ－シップとは！＞

本論に入って、リ－ダ－シップとは何なのでしょう？RLIを例にとって説明しましょう。今、世界の３分の２以上の地区が賛同しているRLI　(Rotary Leadership Institute )は、名の通りロ－タリ－活動のリ－ダ－シツプについて、グラスル－トの研修を続けています。日本でも2008年に私たち有志は、東京のお台場のホテルに集まって話合い、翌年実際の研修を開始してから６－７年になりますが、現在では14程度の地区がRLIガ研修を実施しています。

RLIの最初のMeeting は2750地区のお世話で東京のオリンピックセンタ－で行いました。RLIは名の通り、まず、リ－ダ－シップの理解が必要ですので、最初の時間に「リ－ダ－シップとは何か」という課題で討論してもらいました。

結果としては、スライドのように沢山の項目（要素）が出されました。人格、情熱、ビジョン等々-------40項目近い言葉が並びましたが、どれもこれもリ－ダ－シップに必要な、素晴らしい項目ばかりです。

よく見ると、最初に人格、情熱、ビジョン等、高潔性等、「個人としてのリ－ダ－シップ」に関する表現が並んでいるようです。そして企画力、組織力、行動力、継続等の組織に関する項目も含まれています。わたくし達は「これらを如何にしてロ－タリ－活動に活用したら良いでしょうか？　提案されただけで実行が伴はなければ意味がありません。実際にはこれらの項目を良く理解して「具体的な活動を実践することが肝要です。

(スライド18)

＜リ－ダ－シップの条件＞

効果的にリ－ダ－シップを実践するにはいろいろな条件があると言われています。「効果的なリ－ダ－シップ」を発揮するには、まず、ビジョン、目的を明確に持つことから始まります。視野を広く持ち判断力を駆使して、目的や方法を見出し、仲間たちと協調性を持って、積極的に率先して実践することです。

それには、人間的信頼性を発揮、維持して、誠実性、信頼性が基盤となります。

(スライド19)

＜組織管理と発展性＞

これらの個（個人）としてのリ－ダ－シップだけでなく「組織としてリ－ダ－シツプ」が更に重要です。まず、組織を取り巻く環境が大きく変化する時には、可なり積極的なスケ－ルの大きい「リ－ダ－シップ」が必要で、強力な目的と指導力が必要になります。そして、組織や周囲が安定している時にはきめ細かい確実な「マネ－ジメント」管理が大切です。又、変化が絶え間なく起り、理流動的な時には「ファシリテ－ション」が必要であると言われています。

更に、そして将来への価値観の創造と発展性を考える時、「イノベション」が肝要です。

力のあるリ－ダ－とはこれら内外の情勢を的確に判断理解し、状況に合わせたリ－ダ－シップを発揮して将来への発展に備えなければなりません。その判断が出来るか、出来ないかでリ－ダ－としての資質が決まるとさえ言えるでしょう。

(スライド20)

＜リ－ダ－シツプ＞

組織の要にある人は「リ－ダ－シップ」、「マネ－ジメント」そして「ファシィテ－ション」の長所を兼ね備え、理解し、これらを組織の状態やタスクに応じて柔軟に使いわけなければなりません。つまり、「組織の方向付け」がモツトも大事で、モチベ－ションを高め、ビジョンや戦略も必要です。

(スライド21)

＜マネ－ジメント＞

マネジメントは「組織のシステム作り」であり、その運営。計画、目標、活動を如何にスム－ズに遂行することに重点が置かれます。

(スライド22)

＜ファシリテ－ションⅠ＞

ファシリテ－ションこそ「現代のリ－ダ－シツプ」であると言われています。

具体的には、「ファシリテ－ション」と言う言葉にありますように、理想的活動のために、周到な準備をして、皆の意見を出し合い、活動の方向を見出し、力を合わせて、将来への発展を期待する「ファシリテ－ション」こそ、「ロ－タリ－のリ－ダ－シップ」です。現代の複雑な社会におけるロ－タリ－の「リ－ダ－シップ」のあり方は「ファシリテ－ション」の理解と実践なしには考えられません。

(スライド23)

＜ファシィテ－ションⅡ＞

ファシリテ－ションとは対等な立場で知的な相互作用の場を作ることだと言われています。多様性の尊重、リ－ダ－シップの促進、協調精神の涵養、プロセス思考、集団による問題解決、アイデイアの創造、合意形成、教育、学習、変革、自己表現等、あらゆる知的相互交流活動を支援し、促進する働きが必要になります。

(スライド24)

＜イノベ－ション＞

もう一つ大変重要な要素があります。皆さんご存じとは思いますが「イノベ－ション」です。つまり、変化をいち早く捉える精神、変化への適応性が大切です。個人、組織に限らず周囲や内部の変化を注視して　素早い、適切な対応が必要です。イノベ－ションは自己の能力を引き上げ、成果を生むために、人間性、社会、経済、文化を巻き込んだ前向きに必要な視点であり、活動です。

＜リ－ダ－の役割＞

特に競争と変化が激しい現代では常に変革の方向性を示しながら、それを推し進めて行くのが「リ－ダ－の役割り」といわれています。現代は、地域の共同体の絆が弱くなり、同じ地域に住むとはいえ、ばらばらな個人の集まりになって来ています。皆、人生の考え方や信条も、また価値観も違います。

地域での方向を纏めて行くには、皆で良く自主的に話し合って問題解決を図る必要があります。まさに「ファシリテ－ション」と「イノベ－ション」は時代を先取りするリ－ダ－シップの中核の役割をすることになるでしょう。

 (スライド25)

P、F、ドラッカ－のリ－ダ－シップ論

昨年の11－12月に、私の住んでいる近くにある山口県立美術館で「ドラッカ－・コレクション、珠玉の水墨画」と題する美術展が開催されました。日本でも「マネ－ジメントの泰斗」として良く知られているP.F.ドラッカ－氏ですが、日本美術の水墨画が好きで、室町時代を中心とする「山荘コレクション」と称する

山水画を沢山所持しておられることでも有名です。今回、それらの中から約110点が展示されました。同時に防府市の毛利博物館でも雪舟の国宝「山水長巻」も展示されました。

P.F.ドラッカ－は1909年にオーストリアのウィ－ンに生まれ、ハンブルグ大学に学び、後にアメリカに渡り、ニュ－ヨ－ク大学の教授を務めた経営学の泰斗ですが、マネ－ジメントやリ－ダ－シップに関する著書が30冊以上あります。

この度は、ドラッカ－の著書を各種読ませて頂きましたが、「リ－ダ－シップ」とは人や社会に尽くすことである。組織も個人もそこから充実と自信が生まれ、能力が磨かれ、卓越性が齎されるというのがドラッカ－氏の考え方です。つまり、人のために尽くすことが社会と人間を変革させるのだということです。

(スライド26)

＜ドラッカ－のリ－ダ－シツプ思考＞

リ－ダ－シツプとは、人と組織の共同体を支え、組織と社会の進歩に役立つよう自らを成長させることである。人も組織もそこから充実と自信が生まれ、能力が磨かれ卓越性がもたらされる。つまり、人と社会に尽くすことが社会を変革させるという考え方である。

（スライド27）

P.Fドラッカ－の言葉

１、リ－ダ－シップは自己規律と責任感の上に成りたつ。

２、リ－ダ－にカリスマ性は不要である。

３、変化に対するイノベ－ションは重要である。

４、情報化組織はオ－ケストラとソロのハ－モニ－である。

５、価値観が成長のプロセスを導く。

６、リ－ダ－シップは地位や特権でなく、責任である。

7、真の絆は互いの尊重と相互理解から生まれる。

このような考え方はロ－タリ－におけるリ－ダ－シップの考え方と同様です。

リ－ダ－シップに関して「ドラッカ－の言葉」は沢山ありますが、2－3提示してみます。私はドラッカ－の言葉を読むとロ－タリ－で「ポリオ撲滅プログラム」の協力者ビル・ゲイツ氏の事を思い出します。

昨年の12月17日の朝日新聞に「ビル・ゲイツと語る日本、未来」と言う記事が掲載されましたが、ロ－タリ‐と共に永年、ポリオの撲滅に戦っている彼のリ－ダ－シップに敬意を表します。

今から10年前、私がRI理事の頃、インドのニュ－デリ－で世界免疫感染症の世界会議があり、ロ－タリ－を代表した私が出席しましましたが、その時御夫人と共に会議に出席され、挨拶されましたが、今でも、根気よく沢山の世界感染症と闘っておられます。まさに世界の感染症撲滅のリ－ダ－であると思います。

ビル・ゲイツ氏は「世界の感染症を撲滅しよう」とロ－タリ‐と提携して活動を続けておられますが、「社会貢献　心に響くものから」という記事では、世界的に困難なものと闘っている勇気と闘志に感銘を受けていました。

リ－ダ－シツプは自己規制と責任感の上に成り立つ。つまり、的確な目標と高度な自己規制が組織への貢献を支えることであると言っています。ビル・ゲイツ氏は正にその典型例であると思います。

このように現代のリ－ダ－は構造改革が急速に行われる変化の時代にあっても高いモラルを行動基準に持っていることであり、活動に対して誠実で、高潔で、信念を持ってぶれない姿勢を保つことをいっているのです。カリスマ性は不要です。

現代のリ－ダ－とは、如何なる変動にも対処出来、自ら変革を起こし、担う事が出来る人をリ－ダ－という。すなわち、リ－ダ－シップとは、人のビションを高め、成果の水準を高め、通常の限界を超えて人格を高めることです。

まさにロ－タリ－の中核的価値観と同じです。価値観が成長のプロセスである。人を尊重し、人格を高め、みんなの意見や考えを集約して活動の方向性を出し、責任を持って実践することがリ－ダ－であると言へるでしょう。

真の絆は互いの尊重と相互理解から生まれると言う言葉があります。ドラッカ－の言葉ならずとも、当然のことでして、ロ－タリ‐と言う組織にあっても

お互いの個性と特質が有って成り立っているものですし、職業分類による特質こそ「ロ－タリ－のリ－ダ－シップの特徴」です。

(スライド28)

＜リ－ダ－シップのまとめ＞

リ－ダ－シップについてドラッカ－は名言を述べていますが、以下の通りです。

リ－ダ－シップとは「人の水準の高め、成果の水準を高め、通常の限界を超えて人格を高めることである。その様なリ－ダ－シップの基盤として、行動と責任について厳格な原則、成果に就いての高度な基準、個としての人と仕事に対する敬意を日常の実践によって確認して行くものである。」

現代のリ－ダ－は、構造改革が急速に行われる変化の時代にあっても高いモラルを行動基準に持っていることであり、活動に対して誠実で、高潔で、信念を持って「ぶれない姿勢を保つこと」をいっているのです。現代のリ－ダ－とは、如何なる変動にも対処でき、自ら変革を起こし、担う事が出来る人をリ－ダ－という。すなわち、リ－ダ－シップとは、人のビションを高め、成果の水準を高め、通常の限界を超えて人格を高めることである。と言えます。

＜終わりに＞

「RYLAにおける中核的価値観とリ－ダ－シップ」について話をしましたが、結局、わたくし達ロ－タリアンは「ロ－タリの理念である中核的価値観を良く理解し、実践に移すことが肝要であり、未来を築く青少年は多様な価値観を学ぶ必要がありますが＜ロ－タリ－の価値観に基づく＞リ－ダ－シップを学ぶことによって、人格の成長を促し、将来社会の発展に繋がって行くことも「RYLAの目的」であると言えるでしょう。

地域に住む青少年達の若若しい信条も価値観も同じ共通の未来性を持っています。RYLAの活動こそ、若い人々を中心とした地域発展の新しいアプロ－チです。若い人たちの「新鮮なリ－ダ－シップ」が望まれています。RYLAに参加することによって若い人々に「夢と感動」を与えてください。「夢と感動」は

若い人々が未来へ成長する糧になるものです。　　（終わります。）